

平成22年 5月14日現在

研究種目：特定領域研究  
 研究期間：2005～2009  
 課題番号：17083034  
 研究課題名（和文） 中国思想文献の近世日本社会への伝来とその流通  
 —新儒教と医学思想の文献を中心として  
 研究課題名（英文） Transmission of Chinese Philosophical Texts to Early Modern Japan  
 and Distribution of the Texts — with Focus on Texts of New  
 Confucianism and Medicine  
 研究代表者  
 恩田 裕正 (ONDA HIROMASA)  
 東海大学・清水教養教育センター・准教授  
 研究者番号：70307297

研究成果の概要（和文）：日本を含む東アジア社会を考察するために欠くことのできない新儒教思想（朱子学・陽明学）及びそれと関連のある中国医学の基本文献を対象に研究を行った。朱子学・中国医学では、『朱子語類』・『格致餘論』について、詳細な注を付した平易な現代日本語訳を發表し、一般読書人にも利用しやすいものとした。陽明学では、基本文献の書誌情報や所蔵状況を精査することを通して既知の文献の見直しや新文献の発見を行い、この方面の研究の進展に貢献した。

研究成果の概要（英文）：We conducted research on neo-Confucian thought (School of Zhu Xi[Shushigaku] and School of Wang Yangming[Yomeigaku]) and the related field of Chinese medical texts, a crucially important field for understanding East Asian society, including Japan. With respect to School of Zhu Xi[Shushigaku] and Chinese medicine, we inserted detailed endnotes for “Zhuziyulei[Shushigorui]” “Gezhiyulun[Kakuchiyoron]” and translated them into easily accessible Japanese. With respect to School of Wang Yangming[Yomeigaku], we contributed to the advancement of research by revising previous interpretations concerning known texts and discovering new ones through the close examination of bibliographical information and whereabouts of central texts.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2005年度	6,900,000	0	6,900,000
2006年度	6,900,000	0	6,900,000
2007年度	6,900,000	0	6,900,000
2008年度	6,900,000	0	6,900,000
2009年度	6,900,000	0	6,900,000
総計	34,500,000	0	34,500,000

研究分野：

科研費の分科・細目：

キーワード：中国哲学・朱子学・陽明学・中国医学

## 1. 研究開始当初の背景

南宋の朱熹（朱子）によって集大成され、その批判的且つ最大の継承者である明の王守仁（陽明）に代表される新儒教思想は、近

世以降の日本を含む東アジア世界において非常に大きな影響力を与え続けている。それゆえ、近世日本社会においてもそれを信奉、継承することを目指した思想家が多数生ま

れた。一方、批判者を自任し、「独自」な思想を主張する思想家も多いが、その依拠する文献の多くは新儒教思想を経過したものであり、その影響の磁場と決して無関係ではなく、むしろ強い影響下にあったという方が適切である。さらに、この新儒教思想の広がりには哲学・思想の分野に止まらず、例えば「漢方」として現在でも広く日本社会に定着している中国伝統医学にも及んでおり、実際、近世日本の医学界で重要視された金元四大家（劉完素・張從正・李杲・朱震亨）の医学思想は、いずれも新儒教思想の影響を強く受けているのである。したがって、思想書にせよ医学書にせよ新儒教思想にまつわる書籍は近世日本には大量に輸入され、その翻刻や訓読和刻、解説書等も盛んに出版されたのである。つまり、近世日本社会を考える上で、新儒教思想及びその文献に関する研究は必要不可欠なものなのである。

もちろん、こうした新儒教思想研究の重要性はこれまでも十分認識されており、個々の思想（家）に対する研究には厚い研究の蓄積がある。しかし、それを文献の出版・流通状況と関連づけて論じたものは少数であり、また、新儒教思想と医学思想を関連させて論じたものも同様であった点に課題があった。さらに、日本思想研究においては近世日本における受容、展開、批判等のありかたに過剰に焦点が当たるあまり、朱熹や王守仁の著作・語録やその他の元の中国語文献が中国語としてどのように読まれるべきであるかについて必ずしも十分に認識されていなかった一方、中国思想研究においてはそれが日本（及び他の東アジア世界）における読解とどのような関係にあるのかについてやはり十分に考慮されてこなかったため、新儒教思想理解において近世の日本と中国（及び他の東アジア世界）との間に一種の「齟齬」が生じているという大きな課題があった。

このように未解決の大きな課題が存在していた開始当時の研究状況をふまえ、その課題の解決の端緒を見つけるべく本研究は計画、実施されたのである。

## 2. 研究の目的

南宋の朱熹（朱子）によって集大成され、その批判的且つ最大の継承者である明の王守仁（陽明）に代表される新儒教思想は、日本を含む近世東アジア世界において、哲学・思想の分野に止まらず、医学等自然学に関わる分野にさえ非常に大きな影響力を与えている。したがって、近世日本社会を考える上で、新儒教思想及びその文献に関する研究は必要不可欠なものなのである。

本研究は、近世日本社会における新儒教思想・医学文献の伝来・出版・流通状況を分析し、それがそれらの信奉者、継承者或いは批

判者の新儒教及び医学思想に対する理解／誤解・受容／排斥・再構成／解体にどのように影響を与えているかを、主として(1)朱熹、(2)王守仁、(3)劉宗周、(4)朱震亨の著作・語録等の文献の伝来・流通・出版状況を通して考察することを目的とするものである。同時に、(5)新儒教思想により設立された近世日本の学校（藩校、郷校等）及びそこにおける教育の諸相についても検討を加えることで、本研究班で研究対象とした個々の文献についての研究成果を連関させつつ、こうした文献が近世日本社会において実際に活用された状況の一端を明らかにすることも目的とした。

## 3. 研究の方法

本研究は、近世日本社会における新儒教思想・中国医学文献の伝来・出版・流通状況を分析し、それがそれらの信奉者、継承者或いは批判者の新儒教及び医学思想に対する理解／誤解・受容／排斥・再構成／解体にどのように影響を与えているかを明らかにすることを目的とするものであった。

この目的を達成するために、(1)朱熹、(2)王守仁、(3)劉宗周、(4)朱震亨の著作・語録等の文献、及びこうした文献が活用された場の一つと考えられる(5)新儒教思想により設立された近世日本の学校（藩校、郷校等）を研究対象として研究を進めた。

まず、対象文献の伝来・出版・流通状況を分析する前に、基礎作業として訳注の作成、書誌や所蔵状況の調査と公表に取り組んだ。これは、本研究で対象とした新儒教思想・中国医学の文献は、近世日本社会を考える上でも必要不可欠な重要な基本文献であるにもかかわらず、必ずしも研究が十分に行われていないためにこれらの文献についての詳細な訳注や書誌がこれまでほとんど公開されておらず、一般読書人にとってはもちろんのこと、関係領域の研究者にとってさえ使いやすいものではなかったからである。なお、本研究期間内においては、この基礎作業にほぼ全精力を傾注することになった。

以下、各対象について具体的に述べる。

(1)朱熹については、恩田と垣内が担当した。朱熹は新儒教思想の集大成者であり、既述の通り日本を含む東アジア世界において非常に大きな影響力を与え続けている思想家である。このため、東アジアのいずれの地域においても朱子学研究の歴史は長く、その成果も決して少なくない。それにも関わらず、朱熹自身の著作・語録（語類）を含む朱子学の基本文献を読み解き、その成果を現代語による訳注としてまとめる作業は驚くべきほど等閑視されてきた。日本ももちろん同様の状況にあり、朱子学は近世社会において影響力

のある思想であると「教科書的に」広く一般に認識されながら、朱熹の著作・語録（語類）の内容については、一部の専門家を除けばほとんど正しく理解されているとは言い難い。こうした状況を考えれば、膨大な量の朱子学文献を個々の専門研究者が個別に読み解くだけでは、朱子学研究の水準を高めることは難しい。朱子学の基本文献を精確に読み解き、必要な注を付した現代日本語訳を作り、その成果を学界で共有することが、今後の朱子学研究のためには不可欠な作業である。同時に、そうした訳注の存在によって、他分野の研究者、ひいては一般読書人に、自らが現在生きている「場」を考察するために必要である朱子学の基本文献をわかりやすい形で提供できるならば、朱子学研究の新たな展開へつながることが期待される。

本研究においては、朱子学の基本文献から『朱子語類』を対象に選んだ。その理由としては、まず、同書が朱熹との問答をその門弟たちが記録したノートを後に分類・編纂したという朱熹の「生の声」をいまに響かせる貴重な資料であること、しかし、そのために当時の口語表現を多数含んでおり読解が容易でないこと、したがって、書名は広く知られているにもかかわらず必ずしも正確に読まれてこなかったことがあげられる。さらに、思想史的な検討・考察の点からいえば、『朱子語類』は、朱熹自身の他の著作や経書と注疏、仏典を含む思想文献等との関連を見据えて読解されなければならないにもかかわらず、これまでの研究はその点でも問題が多いことも『朱子語類』を対象に選んだ理由としてあげられる。

本研究では、『朱子語類』という重要な基本文献について、従来の研究のこうした問題点を解消し、研究者のみならず一般読書人にもその精確な読解を広く紹介することを目指して、詳細な注を付した平易な現代日本語訳を作成するための研究を行った。

(2) 王守仁については永富が担当した。王守仁（陽明）は朱熹と並ぶ新儒教思想の巨頭として、また不敗の軍人として、同時代においてきわだった存在であった。そのため、彼の語録・詩文集はその生前において既に数種類が出版され、死後、隆慶六年（1572）に刊行された『王文成公全書』において一応の集大成がなされた。しかも、この『王文成公全書』は、語録・文録・別録・外集・続編といった整然たる構成を持ち、書簡の編年もなされ、随所に銭徳洪による解説が附されていたため、文献学的研究の余地は少ないと考えられてきた。したがって、王守仁の著作に関する文献学的研究は、中国においても日本においても不振を極めることとなり、通行本をそのまま利用するに止まり、各地の図書館に所蔵

された善本が積極的に利用されることはなかったのである。先行研究はいくつかあったが、それらは現存する版本の所在を網羅的に調査したわけではなく、各版本の成立、刊行、流布等についての検討を疎かにした個別の版本調査に止まり、各版本の成立および相互の関係に関する基本的な事実についての考証が不十分であった。つまり、明代中期以降において朱子学と並ぶ影響力を持ち、日本においても思想界の一翼を担った王守仁の学術の、その基礎研究である書誌学に関する研究の蓄積は、極めて薄弱なものだったのである。

以上のような従来の研究の弱点を鑑み、王守仁の著作に関する文献学的研究を包括的なものにすべく、王守仁の著作の所在についてできる限りの調査を行い、各版本の関係の考察についても注意を払った。特に、従来の研究者が日中両国とも、多くの場合、自己の所属機関か、その周辺地域の蔵書のみを頼って論述を行っているため、全面的な研究を行い得ないであることを考慮し、日本、中国、台湾、欧米の各研究機関・図書館等に所蔵されている関係資料を網羅し、全面的な記述を行うことに留意して研究を進めた。

(3) 劉宗周については難波が担当した。劉宗周（戡山）の誠意説は江戸期儒学者に受容され、特に幕末維新期の日本思想に多大な影響を与えた。その誠意説形成期は劉宗周最晩年の人間観を記述した『人譜』の執筆と同時期であり、両者は密接な関係がある。日本では天保十二年（1841）に『戡山先生人譜』が刊行されているが、中国で刊行されている同書の各種版本と比較検討することによって、『人譜』や誠意説に対する日本受容の特徴を解明することができると考えられる。本研究では、この課題を考究するために、『人譜』に関する文献的な研究の他、日本及び中国の大学・図書館等に所蔵されている関係資料の実地調査、劉宗周と関係が深い書院史跡の踏査等を行った。

(4) 朱震亨については主に長谷部が担当し、恩田が補助的に携わった。本研究において、朱震亨を対象としたのは、金元四大家のうちでも特に日本の医学に影響を与えたのは李杲と朱震亨（李朱医学）であり、日本における中国医学受容の歴史を解明する上で極めて重要な人物であるためである。朱震亨の著作の中、『格致餘論』を中心に据えたのは、同書が朱震亨の医学思想が最も端的に表れている文献であるにもかかわらず、現在の日本人研究者から重視されているようには思えないこと、一方江戸時代には寛文五年（1665）刊『頭注格致餘論』や元禄九年（1696）刊岡本一抱子『格致餘論諺解』などがあり、

江戸時代初期には重視されていたことがわかるためである。

本研究では、上述の『頭注格致餘論』や『格致餘論諺解』を参照しつつ、『格致餘論』の現代日本語による訳注を作成することで、金元医学思想の新儒教思想との関係や日本での受容に関するこれまで十分に明らかにされてこなかった問題について研究を行った。

(5) 近世日本の学校については主に難波が担当し、他の全班員が必要に応じて協力した。学校での教育とその運営は、近世東アジア社会においては新儒教思想家の重要な実践であった。日本もその例外ではない。したがって、近世日本社会における新儒教思想の受容を考える場合、当時の学校に関する研究を欠かすことができない。本研究では、①近世東アジア社会の学校の特徴と教育方法、②中国・韓国・日本の近世社会の学校や教育における三者の相異や相同性、③近世東アジア社会の学校と西欧の大学との比較等について研究基盤を準備することを目的として研究を進めた。同時に、(1)～(4)で検討した文献・思想が近世日本社会において実際に活用された状況の一端を明らかにすることも目指した。こうした目的を達成するために、近世東アジア社会の学校である中国・韓国の書院、日本の藩校、郷校等の現地踏査を行い、それらの所在地の研究者との共同研究による資料収集を行った。また、近世東アジア社会の学校や教育方法の特徴を世界的規模の中で鮮明にするために、欧州の大学制度や所蔵図書資料等も調査した。

#### 4. 研究成果

(1) 朱熹研究については、朱子学研究における基本重要文献の一つである、朱熹との問答をその門弟たちが記録したノートを後に分類・編纂した『朱子語類』の一部について、その精読を通して詳細な注を付した現代日本語訳を発表した。まず、本研究期間開始以前の成果をも含めて同書巻1～3についての研究をまとめ、垣内、恩田『『朱子語類』訳注 巻一～三』(汲古書院、2007)として刊行した。この他、恩田及び垣内が『汲古』、『論叢 アジアの文化と思想』、『中国哲学研究』誌上に巻8、巻94、巻115、巻116の訳注を継続的に発表している。これらの訳注においては、単に『朱子語類』本文を平易な日本語として読めるようにしただけではなく、『朱子語類』中に現れる口語語彙に関する用例と解釈を示すとともに、朱熹自身が語ったとされることばを、『四書集注』・『朱文公文集』等朱熹自身による著作、その先行者や同時代の思想家の文献・語録、経書及びその注疏等における記述との関連の中で位置づける詳細な注を附すことによって、『朱子語類』を

当時の中国語として正確に読むための知見を提供すると同時に、その発話の背景をできるだけ明確に提示することによって、その内容をさらに精確且つ深く理解できるようにした。そのため、これらの成果によって、重要でありながらこれまでは必ずしも十分に確に読み込まれてこなかった朱子学の基本文献の一つである『朱子語類』を、中国哲学研究者はもちろんのこと、日本思想史・近世史等の関連領域の研究者や一般読書人にとっても読みやすい形にして紹介することができた。

さらに、本研究班の成果としては、これまで各地の研究者・研究会がそれぞれ独立して細々と行っていた『朱子語類』の訳注作成作業を活性化するとともに、効率的に組織する契機の一つとなったことがあげられる。すなわち、上述の『『朱子語類』訳注 巻一～三』の刊行を機に『朱子語類』訳注刊行会が組織されたことである。恩田と垣内もその創立時からのメンバーである。同刊行会の成立により、それに刺激を受けて各地で新たな研究会が立ち上がるなど、『朱子語類』を読み解く研究が活発化したと同時に、その研究成果を相互の連関なく散在させることなく一元的に集約できる枠組を構築することができた。このことは、今後の『朱子語類』及び朱子学研究の進展に対する大きな貢献であり、本研究班の大きな成果の一つであるといえよう。

(2) 王守仁研究については、王守仁の著作に関して、基礎研究であるにもかかわらずこれまで研究の蓄積がきわめて手薄であった文献学的研究を包括的なものにすべく、研究を行った。これまでの研究が、各研究者の周辺の機関・地域に残る諸本のみを見て研究を行うだけで、現存する各種版本の所在を広範囲にわたって確認、調査することや、各版本の成立と刊行及びその流布を考究するという学術研究における基本的な作業に意を尽くさない個別の版本調査に止まり、各版本の成立及び相互の関係についての基本的な事実に関する考証が不十分であったことをふまえ、日本、中国、台湾、アメリカの各機関に所蔵されている関係資料を博捜し、現存する王守仁の著作に関する版本を網羅的に検討、分析することに留意して研究を進めた。その成果として、本研究期間開始以前の成果をも含めて永富『王守仁著作の文献学的研究』(汲古書院、2007)を刊行し、王守仁研究の基礎資料とされている『王文成公全書』やその言行録のうち最も普及している著作である『伝習録』、『伝習録』に比して語られることの少なかった『陽明先生文録』の成立と出版、及びまとまった形で語られることのなかった兵学関係の著作や各種の伝記資料に関する、これまで恣意的に分析されることが多く、十

分に解明されてこなかった王守仁の著作の文献学的研究に対して、新しく確かな知見を関連の研究者に提供することができた。

同書刊行後も、調査地域を欧州にまで広げつつ関係資料の網羅的な調査と分析を継続しており、それらに基づき、王守仁の著作に関する既発表の内容についての補正や補充、新情報の報告を行っている。

(3) 劉宗周研究については、江戸期儒学者に受容され、特に幕末維新期の日本思想に多大な影響を与えたその誠意説の形成と密接に関係する重要な著作である『人譜』について、文献的な研究の他、国会図書館、九州大学図書館、上海図書館、浙江大学図書館等が所蔵する関係資料の現地調査、劉宗周が『人譜』を執筆する直接的契機であった紹興の証人書院史跡の踏査をあわせて行った。こうした調査・研究に基づき、『人譜』諸版本中から和刻本の底本を確定して、幕末維新期儒学者の劉宗周思想受容の特徴を明らかにし、日本思想史・近世史研究者に「誠意」「慎独」理解の基礎概念を提供することができた。成果の一部は、難波「劉宗周の『人譜』について」(『比較文化』第7号、2010)として発表している。また、調査の過程で劉宗周後学の黄宗羲・陳確・張履祥・祝月隱・惲日初に関する文献についても調査を行っており、今後の研究の進展によって、劉宗周及びその『人譜』理解に深化が見られることが期待される。これまでの成果は、難波「黄宗羲と山田方谷の養気観」(『比較文化』第3号、2006)として発表している。

(4) 朱震亨研究については、その重要な著作である『格致餘論』の精読を通して、詳細な注を附した現代日本語訳を作成し、本科学研究費補助金の研究報告(2007)として刊行した。これによって、重要でありながらもこれまで必ずしも十分に読み解かれてこなかった中国医学の基本文献の一つである『格致餘論』を、他領域の研究者や一般読書人にとっても読みやすい形にして、紹介することができた。刊行後は、中国・医学関係の研究者からいくらかの意見が寄せられ、研究成果に対する一定の反響はあったと考えられる。さらに、一般読書人などのより広い層に研究成果を還元すべきであるとの勧めもあった。本研究期間終了後であるが、現在は、寄せられた意見をもふまえながら訳注の改訂を進めており、書籍として出版する予定である。さらに朱震亨研究を深化させ、それを広く紹介するため、同じく朱震亨の著書である『局方發揮』についても並行して研究を進めている。

(5) 近世日本の学校については、難波が行った中国の岳麓書院・白鹿洞書院・万松書院・

東林書院等、韓国の陶山書院・紹修書院・屏山書院・成均館等、日本の致道館(庄内)・明倫館(萩)・閑谷学校・日新館・弘道館等に対する現地踏査や、それらの所在地の研究者との共同研究による資料の収集と分析を通して、①近世東アジア社会の学校の特徴と教育方法、②中国・韓国・日本の近世社会の学校や教育における三者の相異や相同性を一定程度明らかにし、近世日本社会における新儒教思想の受容のあり方の一つの形を提示した。また、近世東アジア社会の学校や教育方法の特徴を世界的規模の中で鮮明にするために、朱熹の白鹿洞書院再建と同時期に建学されたケンブリッジ大学や、ドイツのフンボルト大学の大学制度や所蔵図書資料等の調査も行い、③近世東アジア社会の学校と西欧の大学との比較等についての研究基盤作り着手した。これらの研究成果のうち、特に①・②を中心に、(1)～(4)で検討した文献・思想の近世日本社会における受容状況へも目配りしながら、本研究班全体の研究を総括する意味で、中国・韓国から著名な研究者を招いて2009年10月3日(土)に岡山県青少年教育センター閑谷学校において「東アジア前近代の学校と教育に関する国際シンポジウム」を開催した。そこで行われた講演、発表、討議については、本科学研究費補助金の研究報告となる論文集として刊行した。なお、このシンポジウムには、研究者以外に多くの一般市民の方々が参加され、研究成果を広く社会に還元するという面において一定の成果をあげることができた。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計13件)

- ① 難波征男、劉宗周の「人譜」について、比較文化、査読無、第7号、2010、1-18
- ② 永富青地、關於上海図書館蔵『新刊陽明先生文録統編』、版本目録学研究、査読有、1、2009、228-254
- ③ 『朱子語類』訓門人研究会(代表：垣内景子)、『朱子語類』訓門人訳注(三)一巻一六・第29条～第55条一、論叢 アジアの文化と思想、査読無、第18号、2009、29-104
- ④ 恩田裕正、『朱子語類』卷八「総論為学の方」篇訳注(一) 1-13条、中国哲学研究、査読有、第24号、2009、98-109
- ⑤ 恩田裕正、『朱子語類』卷九十四訳注(八)、汲古、査読有、第56号、2009、37-46
- ⑥ 永富青地、關於『朱子晚年定論』的単行本、故宮學術季刊、査読有、第26卷第2期、2008、89-104
- ⑦ 『朱子語類』訓門人研究会(代表：垣内景子)、『朱子語類』訓門人訳注(二)一巻一

一五・第28条～卷一一六・第28条一、論叢 アジアの文化と思想、査読無、第17号、2008、144-255

- ⑧永富青地、張元忬『朱子摘編』について、人文社会科学研究、査読無、第48号、2008、85-97
- ⑨『朱子語類』訓門人研究会（代表：垣内景子）、『朱子語類』訓門人訳注（一）一巻一五・第11条～第27条一、論叢 アジアの文化と思想、査読無、第16号、2007、35-79
- ⑩永富青地、日本の王守仁文献研究概観、文献（北京図書館出版社）、査読有、総109、2006、177-183
- ⑪垣内景子、『朱子語類』訳注（七）一巻一五・1条～10条、明治大学教養論集、査読有、通巻411、2006、1-14
- ⑫恩田裕正、『朱子語類』卷九十四訳注（一）、汲古、査読有、第49号、2006、60-67
- ⑬難波征男、黄宗羲と山田方谷の養気観、比較文化、第3号、査読無、2006、1-13、<http://ci.nii.ac.jp/naid/110006184548>

〔学会発表〕（計5件）

- ①永富青地、関於白鹿洞書院刻本『伝習録』、第一回中国古典文献学国際学術研討会、2009年11月6日、東呉大学（台湾）
- ②難波征男、江戸期学校の展開と特徴、東アジア前近代の学校と教育に関する国際シンポジウム、2009年10月3日、岡山県青少年教育センター閑谷学校
- ③垣内景子、関於《朱子語類》的記録——口語和書写白話的關係、第一回中日学者中国古代史論壇、2009年8月13日、中国社会科学院訪問学者公寓（北京）
- ④永富青地、天一閣所蔵の明代思想文献的意義——以《大象義述》為例、中日学術交流会 中国江南地区的文献集散与天一閣、2009年7月23日、天一閣博物館（寧波）
- ⑤永富青地、関於《朱子晚年定論》の単行本、再造与衍義——文献学国際学術研討会、2007年11月16日、故宫博物院（台湾）

〔図書〕（計6件）

- ①科研費特定領域研究本研究班（編集代表：難波征男）、科研費特定領域研究・本研究班報告書、東アジア前近代の学校と教育に関する国際シンポジウム論文集、2010、1-95
- ②『朱子語類』訓門人研究会（編集代表：垣内景子）、科研費特定領域研究・本研究班報告書、『朝鮮古写徽州本朱子語類』卷一一三～卷一二一・訓門人、2010、i-iii・1-133
- ③恩田裕正、横手裕（編）、勉誠出版、アジア遊学No. 110 特集アジアの心と身体、2008、2-176

④垣内景子、恩田裕正（編）、汲古書院、『朱子語類』訳注 卷一～三、2007、1-387

⑤長谷部英一、恩田裕正、松下道信、他3名、科研費特定領域研究・本研究班報告書、朱震亨『格致餘論』訳注、2007、1-173

⑥永富青地、汲古書院、王守仁著作の文献学的研究、2007、762

〔その他〕

新聞報道

(1)山陽新聞（朝刊）平成21年10月4日（日）掲載 本研究班が主催した「東アジア前近代の学校と教育に関する国際シンポジウム」（岡山県青少年教育センター閑谷学校）開催について

(2)毎日新聞（朝刊）平成21年10月8日（木）掲載 本研究班が主催した「東アジア前近代の学校と教育に関する国際シンポジウム」（岡山県青少年教育センター閑谷学校）開催について

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

恩田 裕正 (ONDA HIROMASA)  
東海大学・清水教養教育センター・准教授  
研究者番号：70307297

### (2) 研究分担者

垣内 景子 (KAKIUCHI KEIKO)  
明治大学・文学部・教授  
研究者番号：40298047

長谷部 英一 (HASEBE EIICHI)  
横浜国立大学大学院・環境情報研究院・准教授  
研究者番号：00251380

永富 青地 (NAGATOMI SEIJI)  
早稲田大学・理工学術院・教授  
研究者番号：50329116

### 難波 征男 (NAMBA YUKIO)

福岡女学院大学・人文学部・教授  
研究者番号：40141767

### (3) 連携研究者

馬淵昌也 (MABUCHI MASAYA)  
学習院大学・外国語教育研究センター・教授  
研究者番号：60209682

松下道信 (MATSUSHITA MICHINOBU)  
皇學館大学・文学部・講師  
研究者番号：90454454